

# ペットボトル資源化推進

ペットボトルのリサイクル事業で連携協定を結んだ神崎郡3町と伊藤園、キンキサインの関係者＝大河内保健福祉センター



## 神崎郡3町と事務組合

### 飲料メーカーと連携協定

神崎郡3町と中播北部行

政事務組合（神河町福本）

は4日、飲料大手「伊藤園」

（東京）、清涼飲料メーカー

「キンキサイン」（姫路

市）の2社と、ペットボトルのリサイクルに関する連携協定を結んだ。同組合などが3町の家庭から回収したペットボトルを、伊藤園が契約したリサイクル業者で再資源化。キンキサインが再びペットボトルにして飲料商品化する。

同組合などによると、「神河、市川、福崎の各町で家庭から排出されるペットボトルは年間約50㌧。現在は日本容器包装リサイクル協会を通じて業者に売却し、衣料品の素材などに再利用されている」という。

ペットボトルのリサイクル化が進むと、石油など化石資源の使用量や二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量の削減につながる。伊藤園はキンキサイン本社第2工場（神河町福本）を通じて日本茶飲料を製造していることから、今回の協定を結ぶことになった。昨年8月には姫路市と同様の協定を締結している。

大河内保健福祉センター（神河町比延）で開かれた

締結式では、同組合の管理者を兼ねる山名宗悟神河町長が「地域で資源を循環し、SDGs（国連の持続可能な開発目標）の達成やCO<sub>2</sub>排出量削減への寄与を期待する」とあいさつ。伊藤園の国枝保執行役員は「安定した製品作りとともに、プラスチックの循環や環境社会の構築に貢献したい」と述べた。（吉本晃司）